

2021年度(令和3年度)  
事業計画書

自 2021年4月1日  
至 2022年3月31日

公益社団法人日本ボート協会

# 2021年度(令和3年度)事業計画

## I 事業方針

今年度においては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で1年延期となった、地元開催である「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」(以下「東京2020大会」)における出場権獲得およびメダル獲得を最大の目標と位置づける。また、東京2020組織委員会ならびに東京都オリンピック・パラリンピック準備局との連携を強化し、東京2020大会のボート競技を成功裏に開催する。併せて、本会の二大方針である「国際競技力の向上」、「ボート人口増大」を引き続き着実に実現していくため、定款に定める以下の各事業を推進する。

### 1. 「日本の地域社会でボート競技の普及を図る」に関する事業

当協会における最重要課題である、「パラローイング」および「コースタルローイング」も含めた普及について広範囲に亘る推進を継続する。また、都道府県ボート協会ならびに全国ボート場所在市町村協議会との連携を更に強め、物的・人的環境の整備を働きかけ普及活動を強化する。

### 2. 「ボート選手の育成・強化を行い、競技力の向上を図る」に関する事業

東京2020大会に向け、出場権獲得およびメダル獲得を最大目標として取り組む。東京2020大会での結果を踏まえ、これまでの取り組みを総括した上で、パリ大会に向けてタレント発掘からジュニア、U23、そしてシニアまで一貫した国際競技力向上の新たな強化戦略を再構築する。

### 3. 「ボートの全日本選手権大会、およびこれに準ずる競漕会を開催する」に関する事業

今年度はオリンピック・パラリンピックイヤーのため、全日本選手権は東京2020大会終了後の9月に軽量級種目を含め実施する。今年度は10大会を開催する予定。

### 4. 「日本代表チームの役員と選手を選定し、国際競漕大会へ派遣する」に関する事業

東京2020大会アジア・オセアニア大陸予選ならびに世界最終予選をはじめ、シニアは東京オリンピック、世界選手権およびワールドカップに、U23は世界選手権およびユニバーシアード大会、ジュニアは世界選手権に、また、パラは東京パラリンピックに派遣する。

### 5. 「ボート競技の諸規則・諸規定の制定、および競技用具の審査と検定」に関する事業

100周年記念事業の一環として進めてきた競漕規則の改定版を発行したが、World Rowingの国際規則改定等に伴う本則・細則の見直しを継続的に行い逐次更新する。また、ボートコースの新規・更新認定業務を都道府県協会およびコース管理自治体等と協力して引き続き行う。また、東京2020大会後の海の森水上競技場のレガシー計画を関係機関とともに推進する。

### 6. 「その他の重要な事業」

本年11月に創立100周年記念式典を開催するにあたり、100周年記念誌の刊行ならびに次の100年を見据えたビジョンを策定し、新ビジョンの実現に向けて2021年度を起点とした財政基盤の再構築を含めた中長期計画の策定に着手する。また、公益法人としての環境整備および更なるガバナンス強化を推進するため、令和元年にスポーツ庁が策定したスポーツ団体ガバナンスコードに沿って体制整備を推進するとともに適切な組織運営ならびに協会活動を展開する。

## II 事業計画

### 1. 競技本部関係事業

#### (1) 競漕大会開催ならびに競技者に関する事業

##### ①競漕大会開催について

- ・今年度は主催大会として、以下の大会を開催する。

開催期日	大会名	開催地・コース
5月29日（土）	全日本マスターズレガッタ特別大会	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
6月26日（土）～27日（日）	第71回全日本社会人選手権大会	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
7月10日（土）～11日（日）	第41回全日本中学選手権競漕大会	長野県下諏訪町 下諏訪ローイングパーク
8月16日（月）～19日（木）	第69回全日本高等学校選手権競漕大会	福井県美浜町 久々子湖ボートコース
9月9日（木）～12日（日）	第48回全日本大学選手権大会	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
9月11日（土）～12日（日）	第61回オックスフォード盾レガッタ	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
9月23日（木）～26日（日）	第99回全日本選手権大会	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
10月1日（金）～4日（月）	第76回国民体育大会ボート競技会	三重県大台町 奥伊勢漕艇場
10月29日（金）～31日（日）	第62回全日本新人選手権大会	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
2022年 3月19日（土）～21日（月）	JOCジュニアオリンピックカップ 第33回全国高等学校選抜大会	静岡県浜松市 天竜ボート場

※全日本選手権大会に軽量級種目を含める。

※(参考)東京2020オリンピック・ボート競技日程：7/23（金）～7/30（金）

東京2020パラリンピック・ボート競技日程：8/27（金）～8/29（日）

##### ②全国インドアローイング大会開催

- ・今年度はA大会（全国9ブロック）およびB大会（全国20ヶ所以上）を開催する。
- ・2021年度大会の成績優秀者についてはアジアインドア選手権大会に派遣する。

##### ③競技団体および競技者について

- ・競技者規定に基づき、2021年度の競技団体および競技者の資格決定を行う。
- ・2021年度の競技団体、競技者登録を行うとともに、当該年度の登録状況を把握する。

#### (2) コース認定に関する事業

今年度は以下の更新認定と新規申請のあったコースについて新規認定を実施する。

- ・2021年度更新認定コース（\*新型コロナウイルス感染症予防で更新認定視察が実施出来ない。可能な限り2021年度に実施したいが政府自治体の方針を踏まえ対応する予定。）

都道府県	コース名	級	距離（m）	認定期間
富山県	富山県漕艇場	B	1,000	*2019年6月12日迄
栃木県	谷中湖ボートコース	B	1,000	*2019年7月18日迄
山梨県	河口湖ボートコース	B	1,000	*2019年7月24日迄

静岡県	天竜ボート場	B	2,000	*2020年6月2日迄
岩手県	田瀬湖ボートコース	B	2,000	*2020年8月29日迄
茨城県	潮来ボートコース	B	1,000	*2020年10月16日迄
石川県	津幡漕艇競技場	B	1,000	*2020年10月16日迄
岩手県	御所広域公園漕艇場	B	2,000	*2021年1月31日迄
富山県	南砺市宮桂湖ボート場	B	2,000	2021年6月24日迄
愛知県	愛知池漕艇場	B	1,000	2021年6月29日迄
大阪府	浜寺コース	B	1,000	2021年6月30日迄
長野県	下諏訪町漕艇場	B	1,000	2021年7月16日迄
大阪府	浜寺コース	C	2,000	2021年7月21日迄
島根県	さくらおろち湖ボートコース	B	1,000	2021年9月16日迄
滋賀県	琵琶湖漕艇場	B	1,000	2022年2月15日迄
和歌山県	美山漕艇場	C	1,000	2022年2月28日迄

(3) 競漕艇の計測に関する事業

第76回国民体育大会、第69回全日本高等学校選手権、第33回全国高等学校選抜大会において競漕艇の計測業務を行う。

(4) 海の森水上競技場整備および2021年度以降のレガシー利用に関する事業

- ① 東京都および東京2020組織委員会と連携し、2022年度以降の本会主催大会や強化拠点化等について協議を継続する。
- ② 総合型地域スポーツクラブの創立に向け、江東区および東京都ボート協会との協議を継続する。

(5) 審判に関する事業

① 審判業務

- ・今年度本会主催および主管大会に審判長はじめ審判員を派遣し大会審判業務を行う。
- ・東京2020大会に限元NT0リーダーをはじめ、国際審判員14名および国内審判員16名を派遣する。

② 審判員養成事業

- ・審判員養成を目的に次の研修会と認定試験を行う。

研修会名称	開催時期	開催場所
第91回審判員研修会 (B級審判員認定試験併催)	6月	埼玉県・戸田
第92回審判員研修会 (B級審判員認定試験併催)	10月	埼玉県・戸田

(6) 規則整備に関する事業

- ・施行した改訂版競漕規則及び細則について、逐次見直しと更新を継続する。
- ・新規則および細則の理解と徹底を継続して図っていくとともに各ステークホルダーの意見を反映し、より完成度の高い規則・細則を目指していく。

## 2. 強化本部関係事業

### (1) 選手強化に関する事業

#### 1) 基本方針

- ・今年度は、オリンピックの出場権獲得、そして本大会でのメダル獲得を最大目標として選手強化事業を実施する。

#### 2) 東京オリンピック出場枠の獲得

- ・5月5日(水)～7日(金)東京・海の森水上競技場で開催されるアジア・オセアニア大陸予選における軽量級男女ダブルスカル、および男女シングルスカルの出場権獲得を目指す。
- ・5月15日(土)～17日(月)スイス・ルツェルンで開催される世界最終予選において、オリンピック全種目のうち、アジア・オセアニア大陸予選終了時点で出場枠を獲得していない有力種目における出場権獲得を目指す。

#### 3) 強化合宿および海外派遣

- ・下記のとおり計画するが、今後の内外の新型コロナウイルスの感染状況等を勘案しつつ、適宜見直すこととする。

##### ① 国内強化合宿

シニアP1：主としてアジア・オセアニア大陸予選で東京オリンピック出場権獲得を目指す選考プロセスをいう。

シニアP2：主として世界最終予選で東京オリンピック出場権獲得を目指す選考プロセスをいう。

実施月	事業名	開催予定地	
4月	強化合宿	福井県・美浜	シニアP1・P2
6月	強化合宿	岩手県・田瀬湖	シニアP1・P2
7月	強化合宿	岩手県・田瀬湖	シニアP1・P2
10月	強化合宿	岩手県・田瀬湖	シニア
11月	強化合宿	未定	シニア
12月	強化合宿	未定	シニア
2022年1月	強化合宿	未定	シニア
2月	強化合宿	長崎県・諫早	シニア
3月	強化合宿	埼玉県・戸田	シニア

##### ② 国際大会派遣（シニアP1・P2）

時期	事業名	開催地
5月	アジア・オセアニア大陸予選	日本・東京
5月	世界最終予選	スイス・ルツェルン
5月	ワールドカップⅡ戦	スイス・ルツェルン
7月	オリンピック	日本・東京
8月	ユニバーシアード	中国・成都
10月	世界選手権	中国・上海

③ 強化合宿および国際大会派遣（JOC次世代・ジュニア）

実施月	事業名	開催予定地
4月～5月	フランス・ドイツ遠征	フランス・エギュベレット他
5月	ドイツ遠征	未定
6月	スロベニア遠征	スロベニア・ブレド
7月	7月国内合宿	未定
8月	U19世界選手権	ブルガリア・プロブディブ

4) 2024年パリオリンピックに向けた戦略

- ・フランス式トレーニングの継続による個人のフィジカルレベルの向上。
- ・タレント発掘活動との連携による若手の育成。
- ・タレント発掘、育成、強化事業の推進。
- ・所属チームとの連携とトレーニング環境の整備。
- ・強化現場におけるアンチドーピング・インテグリティの徹底。
- ・強化マネジメントおよび指導体制の強化。

ただし、東京2020大会の結果と、これまでの取組を総括し、継続すべきもの、改善すべきもの、見直すべきものを見極めた新たな強化戦略プランの中で、上記取組の今後の方針について検討するものとする。

(2) タレント発掘および競技者育成に関する事業

1) 基本方針

- ・今年度も引き続き日本スポーツ振興センターのくじ助成事業として、全国各地のタレントコンソーシアムとの連携を深め、常設型、マシンローイング大会連携型、および地域タレント連携型として、また他NF連携型として発掘事業を継続する。
- ・育成環境をU19カテゴリーからU21、U23、U25（ユニバーシアード）カテゴリーまで拡大し、長期的ビジョンによるタレント育成を継続する。

2) 具体的活動

- ・下記のとおり計画するが、今後の内外の新型コロナウイルスの感染状況等を勘案しつつ、適宜見直すこととする。

① メダルポテンシャルアスリート（U25・U23・U21）国内育成合宿計画

実施月	事業名	開催予定地	対象選手
4月	MPA育成合宿	福井県・美浜	U25・U23・U21
5月	MPA育成合宿	岩手県・田瀬湖	U25・U23・U21
6月	MPA育成合宿	岩手県・田瀬湖	U25・U23・U21
7月	MPA育成合宿	神奈川県・相模湖	U25・U23・U21
8月	MPA育成合宿	岩手県・田瀬湖	U25・U23・U21
11月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23・U21
12月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23・U21
1月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23・U21
3月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23・U21

② JOCエリートアカデミー事業およびタレント育成

- ・ JOCエリートアカデミーは今年度新たに1名が選任され、2名が卒業し、計3名となる。
- ・ 国内育成合宿計画

実施月	実施事業	開催地	対象選手
4月	タレント育成	福井県・久々子湖	タレント・EA
5月	タレント育成	福井県・久々子湖	タレント・EA
6月	タレント育成	福井県・久々子湖	タレント・EA
7月	タレント育成	福井県・久々子湖 神奈川県・相模湖	タレント・EA
8月	タレント育成	福井県・久々子湖 神奈川県・相模湖	タレント・EA
10月	タレント育成	福井県・久々子湖	タレント・EA
11月	タレント育成	埼玉県・戸田	タレント・EA
12月	タレント育成	埼玉県・戸田	タレント・EA
1月	タレント育成	埼玉県・戸田	タレント・EA
3月	タレント育成	埼玉県・戸田	タレント・EA

③ 海外遠征計画

派遣月	大会名および合宿名	開催地	対象選手
7月	U23 世界選手権	チェコ・ラチチェ	U23
2月	オーストラリアキャンプ	オーストラリア・メルボルン	U23・U21・タレント
3月	Sydney 国際レガッタ	オーストラリア・シドニー	タレントA・EA

(3) 医科学に関する事業

① 競技用具の審査と検定に関する事業

- ・ 本会の規格艇登録規定に基づき、規格艇の審査および原簿登録に係わる業務を行う。
- ・ 第76回国民体育大会、第69回全日本高等学校選手権および第33回全国高等学校選抜大会において競漕艇の計測業務を行う。

② メディカルサポートに関する事業

- ・ 戸田ボートコースで開催される全日本選手権、全日本社会人選手権、全日本大学選手権、全日本新人選手権に医師ならびに看護師を派遣し救急医事業務を行う。
- ・ 国内強化合宿、海外強化合宿および海外大会へ、医師ならびにトレーナーが帯同し選手のコンディショニングの維持、改善および指導を行う。
- ・ コンディショニングに関する知識を普及するために、指導者と選手を対象に随時講習会を開催し、また、ホームページを利用した広報活動を行う。

(4) アンチ・ドーピングに関する事業

対象を日本代表シニア、ジュニア (U23・U21等)、およびタレント (U19等) に広げ、アンチ・ドーピングに関する教育および啓蒙の強化を図る。

- ①アウトリーチプログラムの実施
  - ・年3回（5月、9月、10月）実施する。
- ②アンチ・ドーピング（AD）研修会の実施
  - ・全国9ヶ所におけるAD研修会を実施する。
  - ・関係委員会（指導者育成・安全環境）の各種研修会に連動したAD研修会の実施
- ③日本アンチ・ドーピング機構が行う国内大会におけるドーピング検査サポート
- (5) 指導者育成に関する事業
  - ・日本スポーツ協会助成事業による公認コーチ1および3の養成講習会について、今年度は戸田での開催を計画中であるが、日程に関しては新型コロナウイルスの感染状況を勘案しつつ決定する。
- (6) アスリートに関する事業
  - ①トップアスリートの意見を集約し協会諸事業に反映
    - ・各委員会より適宜諮問される諸事項についてアスリートの意見を集約し、アスリートファーストならびにアスリートの環境改善につながる提言を積極的に行う。
    - ・強化合宿等の強化活動に関して、食事、滞在場所、トレーニング環境やコーチ・スタッフ等とのコミュニケーションについてアンケートを集約し、環境改善につながる提言を行う。
    - ・強化活動について、昨年度の提言等に基づきモニタリングを行う。
  - ②本会主催諸事業に協力しボート競技の普及と発展に貢献
    - ・ボート競技ならびにアスリートの地位向上のため、東京2020大会に向けた広報活動や講演活動に積極的に参画し、選手とのコミュニケーションサポートを行う。
    - ・スポンサー企業の協賛活動に積極的に参画する。
    - ・サステイナブルな社会に貢献するため、ボート水域の自然環境を改善・維持する活動を企画し、大会開催時に実施する。
  - ③アスリートのwell-being（心身の健全）、およびボート競技の持続的発展への寄与
    - ・女性アスリート向けの講習会など、各委員会と協働したサポートを行う。
    - ・ジュニアアスリート向け研修の企画による、健全なスポーツマンシップの醸成と将来への礎の構築。
    - ・トップアスリートが引退後も継続的にボート競技や協会の活動に携われるようサポートを行う。

### 3. 普及本部関係事業

#### (1) 普及に関する事業

##### ①全国ボート場所在市町村協議会との連携

- ・ボート競技の普及における有力なパートナーである「全国ボート場所在市町村協議会」加盟の各水域をはじめ、全国主要水域のボート普及環境の整備に関する活動を行う。

##### ②関連団体の活動支援

- ・中学生および高校生のボート競技振興を図るため、全国中学校ボート連盟および全国高等学校体育連盟ボート専門部の活動に対し助成金交付と支援を継続して行う。



③オリンピックの会に関する活動

- ・JSC助成事業としてボート競技普及を目的に「オリンピックとエルゴファイト」を埼玉県戸田市および他1ヶ所で行う。

(2) 広報に関する事業

①協会広報誌「ROWING」の発行

- ・本会機関誌「ROWING」を6回発行する。

②本会ホームページ

- ・タイムリーな報告と強化関連を中心に掲載情報量のアップを図る。

③報道機関、マスコミへの対応と協力

- ・東京運動記者クラブをはじめ報道機関および出版業界との関係を密にし、報道を通じて本会の活動状況の広報に取り組む。
- ・今年度も積極的に情報ならびに画像・映像を提供する。
- ・東京2020大会関連取材に積極的に協力し、ボート競技の普及と発展に寄与する。

④選手関係者・保護者・OB会への対応と協力

- ・広報委員会の情報発信用メーリングリストに現在700人が登録しているが、今年度も登録者数をさらに増加するため、大会パンフレットへの告知やポスター等を作成する。また、レース結果などをタイミング良くリリースをすることで更なる興味を持ってもらうことを目指す。

⑤写真コンテスト「ボートのある風景」の実施

- ・ボートならびに漕艇場水域の広報活動として、今年度も日本スポーツプレス協会会長の水谷章人氏を審査委員長としてコンテストを実施し、ボートを広く見てもらいファンを拓けることを目指す。ただし、昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から本会主催大会が無観客大会となったため、コンテスト用の写真撮影も禁止とし実施しなかった。今年度も感染状況によって変更する可能性がある。

(3) 安全環境に関する事業

①日本ボート協会認定セーフティアドバイザー研修事業

本会認定セーフティアドバイザー研修について、以下の日程で研修会を開催する。なお、本研修は各水域や団体における安全責任者も受講の対象とする。

事業名	開催日程	開催場所
セーフティアドバイザー研修	1月	埼玉県・戸田市
セーフティアドバイザー研修	2月	未定

(4) コースタルローイングに関する事業

2028年のロサンジェルスオリンピックから新たに加わる可能性のあるコースタルローイング及びビーチローイングの日本における基盤作りを都道府県ボート協会と連携して全国で展開する。また、国際大会への参加を積極的に推進する。

- ・国内における拠点づくり検討を継続する。
- ・国内大会を支援する。
- ・競技、普及のための艇整備を継続検討する。

- ・普及用の艇開発を継続検討する。

#### 4. パラローイング本部関係事業

##### (1) 基本方針

- ・東京パラリンピックにおける複数種目の出場権の獲得と、本大会での上位入賞を目指す。
- ・日本代表の競技力向上を通じ、パラローイングの普及と社会的地位向上に努める。

##### (2) 基本計画

- ・各都道府県協会とともに選手の活動をサポートする体制を各地で整備する。
- ・普及用パラローイング艇の配備をすすめ、選手発掘につなげる。
- ・国際大会への派遣、国内でのパラ種目実施大会増によりレース機会を増やし、もって競技力を強化する。
- ・障がいクラス分け、および知的障がい者アスリートサポートについて知見を深め、将来の体制整備に備える。
- ・コーチならびにスタッフの増員により日本代表のサポートを拡充する。

##### (3) 具体的活動

###### ①国内合宿

実施月	事業名	開催予定地	対象選手
4月	4月強化合宿	神奈川県・相模湖	強化指定/育成選手
5月	5月強化合宿	神奈川県・相模湖	強化指定/育成選手
6月	6月強化合宿	長野県・諏訪湖	強化指定/育成選手
7月	7月強化合宿	長野県・諏訪湖	強化指定/育成選手
8月	8月強化合宿	神奈川県・相模湖	強化指定/育成選手
9月	9月強化合宿	神奈川県・相模湖	強化指定/育成選手
10月	10月強化合宿	神奈川県・相模湖	強化指定/育成選手
12月	12月強化合宿	神奈川県・相模湖	強化指定/育成選手
1月	1月強化合宿	神奈川県・相模湖	強化指定/育成選手
2月	2月強化合宿	神奈川県・相模湖	強化指定/育成選手
3月	3月強化合宿	神奈川県・相模湖	強化指定/育成選手

###### ②国際大会派遣

派遣期間	大会名	開催地
5月	アジア・オセアニア大陸予選	日本・東京
6月	世界最終予選	イタリア・ガヴィラーテ
8月	パラリンピック	日本・東京

###### ③乗艇体験会の実施

- ・普及活動として神奈川県相模湖等において乗艇体験会を実施する。

## 5. 管理本部関係事業及びその他重点事業

### (1) 国際関係事業

#### ①国際審判派遣

・今年度は以下の国際大会に審判員を派遣する。

大会名	開催期日	会場地・開催国	審判員
アジア・オセアニア オリンピック大陸予選	5/5(水)～7(金)	日本・東京	審判長：千田隆夫 田畑喜彦(愛知) 成田泰久(東京) 市川 愛(滋賀) 佐藤 裕(東京)
オリンピック最終予選	5/16(日)～18(火)	スイス・ルツェルン	隈元幸治(神奈川)
ワールドカップII戦	5/21(金)～23(日)	スイス・ルツェルン	隈元幸治(神奈川)
世界U23選手権	7/7(水)～11(日)	チェコ・ラチチェ	塚田秀樹(京都)
東京オリンピック	7/23(金)～7/30(金)	日本・東京	田畑喜彦(愛知)
FISU世界大学選手権	8/19(木)～22(日)	中国・成都	松田雅彦(神奈川)
東京パラリンピック	8/27(金)～29(日)	日本・東京	栗山俊久(東京)
世界ビーチスプリント ファイナル	9/24(金)～26(日)	ポルトガル・エイラス	山崎佳奈子(東京)
世界コースタル選手権	10/1(金)～3(日)	ポルトガル・エイラス	山崎佳奈子(東京)

※ARF主催大会の開催は未定。

#### ② World RowingおよびARF総会への代表者派遣

・各連盟の事業方針、各国動向等最新情報を把握するため下記総会へ代表者を派遣する。

会議名	会議日程	開催国・会場地
国際ボート連盟(WR)通常総会	10月25日	中国・上海
アジアボート連盟(ARF)総会	未定	未定

#### ③JOC国際人養成アカデミーへの受講者派遣

・昨年度に引き続き、将来国際ステージで活躍できる人材育成を目的に受講生1名を派遣する予定。

### (2) 財政基盤再建に関する事業

#### ①助成金について

- ・日本オリンピック委員会、日本スポーツ振興センターおよびその他団体に対し本会の諸事業の目的ならびに重要性について理解を求め、継続的且つ安定的な支援をお願いする。アジア・オセアニア大陸予選、選手強化、タレント発掘事業およびパラローイングについては助成確保が活動水準に直接影響を及ぼす為、安定的な支援確保に重点的に取り組む。
- ・戸田ボートコースの共同使用者である戸田競艇企業団・埼玉県都市競艇組合からの助成(受取寄付金)の安定化に向けて、競艇開催日数と助成金額に関して新たな共存共栄関係の構築を図る。

②収入増加策の検討について

- ・各種収入源の単価等を見直し、財政基盤の再建につなげるための検討を行い、関係者からの理解と協力の獲得を目指す。

③マーケティング戦略の構築について

- ・協賛企画の整理による新たな協賛企業の募集を進める。
- ・新ビジョンに基づき、協会の事業価値を抜本的に見直してマーケティング戦略の構築を目指し、中期的な財務再建計画に折り込む。

(3) 100周年記念事業

昨年度、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で延期となった以下の事業を実施する。

①記念式典・祝賀会の開催

- ・11月23日（火・祝日）、経団連会館（東京大手町）において開催する。

②100周年記念誌の刊行

- ・東京2020大会終了後、速やかに刊行する。

③新ビジョンの策定

- ・本会ポスト100年としての全体的中長期ビジョンを策定する。

(4) ガバナンス強化に関する事業

加盟上部団体より、本会のガバナンスならびにコンプライアンスに関する体制および制度については大きな問題はないとの評価を得ているが、今年度も引き続きより一層の体制強化と徹底を図る。

①公益法人に関する業務の推進

- ・公益法人として協会運営を行うために必要な各種規定類のさらなる整備をするとともに、その他の関連業務を継続して実施する。

②コンプライアンスおよびインテグリティの徹底

- ・強化の現場におけるコンプライアンス、およびインテグリティ教育についてJOC等主催の研修会ならびに講習会への参加による啓蒙活動を継続する。
- ・本会の「協会弁護士による研修会」制度を所属団体等に働きかけ活用を促す。

③ガバナンスコードへの取り組み

- ・本年1月、ガバナンスコードの適合状況を公表したが、今年度は統括団体による適合性審査を受ける予定である。引き続き、課題がある事項については対応を戦略的に検討し、より良きガバナンスを目指していく。

以上